夕刊
七月二十二日發行
（日曜祭日翌日休刊）
定價一ケ月金六拾錢　郵金五拾錢
廣告料　一行一回金拾錢　五行一回金六拾錢　五行一ケ月金九拾錢
（但特殊廣告ハ別ニ定ム）
發行人兼編輯人　木村孝
印刷人兼發行所　磐城新聞社
發行所　磐城新聞社
發行所　福島縣磐城郡平町
電話　一番
（平町字新田一二番地）
（平南町字新田一二番地）
（平南町字新田一二番地）
（平南

磐中、平商野、庭球選手
今早朝堂々の鹿島立ち
期待さるる縣下大會の活躍

野球

磐中チームは今二十二日午前五時四十五分、平商同上は同八時二十分發で何れも元氣よく大會開催地郡山に向け出發磐中は斷然一番乘りをなして氣勢を示し平商共々三十分宛交替練習を行ひ磐中は木村屋本店に安達中、平商は布袋館本店に白中と共に投宿する筈

庭球

兩校庭球部は午前五時四十五分で何れも出發したが中學は覇權保持を目指して猛練習を重ね來つたので當日はその活躍を期待さるると同時に平商も優勝候補として數へられてゐる保中、福師、福中、福商等との間に白熱戰を豫想されてゐる

磐中斷然快捷
勁敵磐炭顔色無し
昨日の陸上競技成績

磐中對磐炭陸上競技は昨廿一日午後二時半から磐中グラウンドに於て行つたが三十九對十九で中學快勝し來月一日喜多方中學に開催される縣下中等學校陸上競技大會の瀬踏みとして期待を深からしめた感がある戰績次の如し（◎は磐中新記錄）

百米1十二秒金成（中）2長谷部（炭）3阿部（炭）◎走高跳1一、六〇米鈴木（中）2高橋（炭）3和田（炭）◎八百1二分十一秒箱崎（中）2小貫（炭）3東海林（炭）走巾跳1五、七八鈴木（中）2吉田（中）3高橋（炭）四百米1五六秒薬谷（中）2箱崎（中）3豊島（炭）三可能となり又船舶の出入頻繁に伴ひ漸く港内の狹隘を告ぐるに至つたので此際疲弊漁村救濟策として漂砂防止設備をなし從來の船曳斜面を荷揚場に改造方を提げ出頭縣へ陳情書を提出した

縣下秀劍道試合
龍虎相搏の切迫に意氣昂る磐中健兒

磐中柔劍道部は來月一日大會が自校に開催される關係上來來猛練習を積み當日の活躍を刮目されてゐるが選手は左の如く決定した

△柔道坂本文彦、草野一郎、吉田遠平、阿部文平遠藤角之助、△劍道鈴木至郎、草野大治、根本磐高萩光雄、和田弘尚

尚各校選手の宿舎は左の如く〜である

（住吉屋本店）會中、相中（同支店）保中、相農（新藤屋支店）安達中、白中（鶴屋）福中、會農（和泉屋）若商、會工（藤田屋）石中、岩農（大村屋）福師、（炭屋）喜中（尼子亭）安積中（扇屋）福商（新藤屋本店）双中

一道六縣海洋調査協議
氣仙沼の會合へ
本縣からも數項提案

第十七回一道六縣海洋調査協議會は二十日宮城縣氣仙沼水産試驗分場で開催本縣からは福島測候所の鈴木技手及小名濱支所の小磯一雄技手が出席したが縣下關係の提案次の如し

六、漁況放送に關する件（福島水試）

漁況放送の協定時間の厳守漁獲位置表示の鮮明に一層つとめることになり決議は委員會附托

十三、常業船無線專用通信發信に關し監督々脚方を主務省に請願の件（福島測候）

前第六號議案と關聯して上提され無電の波長に岩手、福島、静岡、千葉間に論議あり、委員會附托

七、常業調査方法に關する件（福島水試）

八、漁場調査方法に關する件（福島水試）

九、波浪實況放送に關する件（福島測候）

小名濱、石巻、女川、宮古の沿岸測候所で毎日波長狀況を放送すること

十、沿岸水温觀測に關する件（福島測候）

定置漁業者に出來るだけ觀測報告せしむる樣各縣で努力すること

小名濱漁港漂砂防止
救濟事業として施工陳情

小名濱漁港内は漂砂及び可木成り廣範圍に亘つて岩礁が駒木根村長外村議數名が今二十二日平土木監督所に出頭縣へ陳情書を提出した

木委員の手で測量設計中で盛木根村長外村議數名が今し四倉、江名、豊間、小名濱等の各漁港を視察する

俵廿一錢低落
勿來農倉俵米共販

勿來農業倉庫の俵米共同販日午後七時から聚樂館に於て代議士伊藤仁太郎氏を迎へ新講談會を開催すると

軍樂隊演奏

目下小名濱港に碇泊中なる軍艦木曾の軍樂隊は昨二十一日午後一時から江名小學校で尚今二十二日は小名濱小學校で演奏會を開催した

矢田川築堤

玉川で運動開始

玉川村大字大原林城間の矢田川堤防二千米は從來降雨毎に欠潰し沿岸人家及び稲作の被害少くないので再三地元から其筋に改修方を陳情中であつたが今回發表された四分の三國庫補助工事として編入を受け工費七萬圓で起工すべく目下同村土

滿洲行
藤田中尉（第一廿一信）

實戰寸話（續）

二年兵は自信あり度胸がのもあります。沈着冷静恰も靜水の如くです。

四、銃劍なしで銃口突刺をやつて居つた兵が居た戰ひ止んだ明くる朝銃口刺突では刺さるまいと問ふたら いや甘くはいりましたと言つて居た。

五、屋内格闘は三人一組が理想であると思ひますどうも單獨では相手方を刺した瞬間他の敵からやられる憂あり、この折左右に二人居ればそれに備へる事が出來ます、場合によつては五人一組も適當であらうと考へます。

六、第四中隊の某兵の如きは當夜は四十餘度の高熱で休養室に在つたのですがいつの間にか警急集合と聞いて強く制止するのも肯かず敢て參戰し夜半十二時から一時の間に敵と壮烈なる格闘を演じ數人を刺しました、明くる朝病氣はどうしたと詰すと何闘し得る人種は獨り我が大た全快しましたと平氣なので根本から折れたが其場で再び銃に結繩して又刺したも

「拾つた話」—(27)—
兩國川開き由來記
ウキンド一ぱいの涼快

東に筑波、西に『咲く』とは太田道灌の感慨富士、そして打ちである。

×

江戸が家康の覇府となり城下町として目覺ましい發展を遂げてから水の隅田川享保十八年五月二十八日。今から二百年前の事であるその日から八月二十八日迄の船宿茶屋に花火、夜見世を行けば茶店の檐や屋形船の

國庫補助實地踏査
主務省から來郡

大藏省竹内事務官、農林省鈴木技手は國庫補助交附用務を帶び明後二十四日午前十時三十分平着列車で來郡見る限りの武藏の平野をば悠々として流れる大河水、それが人の詩興を唆り遊意を動かすに何の不思議は無かつた、遠い遠い昔から都は江戸人の忘れ得ない風流の世界となり殊に木蘭舟中の舞台で『十里行舟波自ら花』に娥眉を斬ると云ふ高尾の

爲替ツリ錢詐欺
北へ北へと荒す
今度は盛岡で一と稼ぎ

此程平町一二商店の鼻もをシャツを買ひ求めてお定り讀んで赤い舌を吐いた横着な小爲替ツリ錢詐欺が隣縣し宮城へ潜入したらしい形跡ある旨昨報の如くであるが石の巻でもマンマと味を占めた彼は更に北漸して岩手に入つたものの如く二十日午前十時頃には盛岡市下橋通り五八洋品店佐藤貢三郎方に現れ二圓五十錢のワイ

死！傷！
呪はしくも世相は動く

貨車に刎ね飛ばさる
魚行商の老婆終に絶命

内郷村宮平太郎居住群馬縣（三〇）は昨二十一日午後零時半頃同村宮蛭子地内で疾走中の磐炭專用線貨車に跳ね

去る妻の旅費で紛糾
百姓働きが出來ず破鏡の歎

小名濱町西町渡邊辰之助方良元五二江原才吉妹たけ（三三）を妻に迎へたが當時堺野村八五四の一山口宇三郎方同居人魚行商前林カネ

崖から辷つて
濁流に捲き込まる
登校途中幼兒の奇禍

永戸村大字合戸遠藤某三男小學校一年生由夫（八）は二十日午前七時頃登校の途中誤つて二十尺餘の崖から水中の好間川上流に辷り落ち溺死したと

相澤一ちゃん自動車で怪我

平町三丁目相澤己吉長男一典（五）は昨二十一日午後三時半頃自宅前で

貰ひが少く悲觀してか
お孤さんブランコ往生

靈場赤井嶽參道附近で發見

昨二十一日午前六時頃關伽井嶽東參道側山林中に年齢四十五六歳前後ルンペン風の男が縊死してゐるのを朝草刈りが發見平署に届出たので直に檢視したが最近まで附近で物乞ひして居た新潟縣東蒲原郡東川村大字小平三留文吉（四五）らしく目下身許取調中で一時假埋葬に

孝行の酌
其筋の計らひで

内郷村宮料理店佐野家方抱へ酌婦山形縣東置賜郡新庄町日野琴子（二九）假名—は昨年三月中長々中風で病床にある父の醫療費調達のため健氣にも前借百五十圓で前記に住み込んだが今月上旬

女同志
弄花手入れ

一網三名打盡

内郷村宮蛭子八〇料理店山峯ブン（四八）同二五羽田とも

人出三百人
四倉通信

四倉町海水浴場昨二十一日の人出は約三百人に上り今年初めての賑ひで各脱衣場は俄に活氣を呈して來た

縣山口技師踏査　過般來四倉港埋立地實地測量中であるが近日中に終了し來月中起工式を擧げらるる模樣である

根本署長著任　廿一日午前九時着任同日各方面を歴訪挨拶をなした

石島商會慰勞會　借家人百五十名の招待慰勞會は來日は實探しマラソン等の餘興あると

前田醫院
院長　前田清美
植田町電話一二四

御料鹽豚（コーンポーク）
田町三二三二内店
電ヲ三二三番

廣告

判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

日曜　七月二十日
六月二十日
乙酉　先勝　滿宿
日曜　七月二十日